

東京藝術大学放射線量測定結果

○ 上野キャンパス

単位：マイクロシーベルト(μSv)／時間

測定日時	天候	美術学部 絵画棟前	美術館 入口	美術学部 学生食堂前	事務局 管理棟前	音楽学部 奏楽堂前	附属高校 正門	備考	
平成28年8月5日	6:30	晴	0.09 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.05 μSv	0.06 μSv	
平成28年6月8日	6:40	晴	0.09 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	
平成28年4月6日	6:50	晴	0.09 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	0.05 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	
平成28年3月24日	6:50	霧雨	0.10 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.05 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	
平成28年1月6日	6:40	曇	0.08 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	
平成27年12月4日	6:50	晴	0.07 μSv	0.07 μSv	0.07 μSv	0.05 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	
平成27年11月5日	6:50	晴	0.09 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.05 μSv	0.06 μSv	0.07 μSv	
平成27年10月2日	6:40	雨	0.08 μSv	0.07 μSv	0.08 μSv	0.06 μSv	0.06 μSv	0.08 μSv	

◎ 上野・取手両キャンパスとも、測定以来、安全の目安となる0.312 μSv/h (※を参考) を下回る数値を示している。

○ 取手キャンパス

単位：マイクロシーベルト(μSv)／時間

測定日時	天候	専門教育棟と メディア教育棟の間		学バス停留所 (乗車口)		陶芸窯場		グラウンド (サッカーコート)		その他(☆)			
		1 m	5 cm	1 m	5 cm	1 m	5 cm	1 m	5 cm	測定 箇所	1 m	5 cm	
平成28年8月2日	8:50	曇	0.11	0.12	0.10	0.11	0.10	0.11	0.10	0.11	a	0.08	0.09
平成28年6月14日	9:50	晴	0.12	0.14	0.10	0.11	0.10	0.11	0.08	0.09	f	0.09	0.09
平成28年4月5日	9:30	曇	0.13	0.15	0.12	0.13	0.10	0.11	0.10	0.11	e	0.09	0.09
平成28年3月23日	8:50	曇	0.11	0.15	0.12	0.12	0.10	0.11	0.10	0.10	d	0.12	0.12
平成28年1月5日	8:40	晴	0.12	0.15	0.11	0.12	0.12	0.12	0.10	0.12	c	0.08	0.09
平成27年12月15日	8:50	曇	0.13	0.15	0.11	0.11	0.11	0.11	0.10	0.13	b	0.11	0.11
平成27年11月2日	8:50	雨	0.13	0.15	0.12	0.12	0.11	0.11	0.14	0.14	a	0.09	0.08
平成27年10月6日	8:50	晴	0.13	0.16	0.13	0.14	0.12	0.12	0.11	0.12	f	0.11	0.11

☆ 4カ所以外に、毎回場所を変えて1カ所掲載(a. 共通工房1Fアーケード下、b. 利根川荘と食堂の間の通路、c. 大学美術館取手館入口、d. メディア教育棟1F工作室外部) **平成23年12月26日から2ヶ所追加(e. 共通工房棟北側：彫刻基礎実習室外部、f. ゴミ集積場)**

測定方法：上野(地表面から1mの地点で、90秒間3回測定)

：取手(地表面から1m及び5cmの地点で、それぞれ90秒間づつ3回測定)

測定時期：上野(概ね3ヶ月間隔で測定)【平成27年度から測定間隔を変更】

：取手(概ね2ヶ月間隔で測定)【平成27年度から測定間隔を変更】

測定機器：日立アロカメディカル製 エネルギー補償型γ線用シンチレーションサーベイメータ

TCS-172B(上野、取手/平成24年1月測定分から)

◇平成23年12月測定分までの機器【上野(米RAE社製/DoseRAE2)、取手(中国製/NT6102 RADIOMETER DOSIMETER)】

測定者：本学職員(上野、取手)

桐野文良教授【放射線取扱主任者、第一種作業環境測定士(電離放射線関係)】を計量責任者として測定。

測定責任者：東京藝術大学安全衛生委員会

【放射線の空間線量率測定結果に対する考え方】

本学では、このたび国が「放射性物質汚染対処特措法」で示した基本方針の数値に則り、1mSvに自然界の大地から放出される年間0.34mSvと宇宙から降り注ぐ年間0.30mSv(いずれの値も日本平均)の放射線量を加え、年間で蓄積される放射線量が1.64mSvを超えないことを安全目標とします。

ちなみに、人が自然界で1年間に受ける自然放射線量は、世界平均で2.4mSvであることから、1.64mSvという数値が妥当なものと確認することができます。

※安全目標とする1年間での蓄積線量1.64mSvという数値を、本学で測定した数値と比較するため、人が1日24時間の生活を屋外で8時間、屋内で16時間、365日(1年)の間過ごし、被ばくしたと仮定して計算すると…

$$1.64\text{mSv} \times 1,000 \div 365 \text{日} \div (8\text{時間} + 16\text{時間} \times 0.4) = 0.312 \mu\text{Sv/h} \text{ (マイクロシーベルト/時間)}$$

◇屋内数値は、屋外数値に、国際原子力機関(IAEA)が示した木造家屋における低減係数の0.4を乗じて算出。

となる。ただし、この数値を超えたとしても、直ちに問題となるわけではなく、評価はあくまで1年間の蓄積量で行うこととなります。

台東区のホームページ
取手市のホームページ
東京都のホームページ
文科省のホームページ

<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/bosai/kinkyujohou/hoshasen/index.html>
<http://www.city.toride.ibaraki.jp/index.cfm/8,6963,13,98.html>
<http://monitoring.tokyo-eiken.go.jp/monitoring/index.html>
http://www.mext.go.jp/a_menu/saigai_johou/index.htm (東日本大震災関連情報)